

都道府県・ 指定都市番号	4 4	都道府県・ 指定都市名	大分県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	総合的な学習の時間
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>○「考えるための技法」の活用を主として、教科・科目等を横断した探究的な学習についての研究</p>				
ふりがな 学校名（生徒数）	おおいたけんりつべつ ぶつるみがおかこうとうがっこう 大分県立別府鶴見丘高等学校（791人）				
所在地（電話番号）	大分県別府市鶴見横打4433-2（0977-21-0118）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://kou.oita-ed.jp/bepputurumigaoka/				
研究のキーワード	教科横断 思考ツール 探究活動 主体性 カリキュラム・マネジメント				
研究結果のポイント	<p>○「探究プロジェクト」における取組</p> <p>○ 思考ツールの活用</p> <p>○ アンケートによる学習効果の調査</p> <p>○ 教科・科目等の横断的指導計画（単元配列表）の作成</p>				

1 研究主題等

（1）研究主題

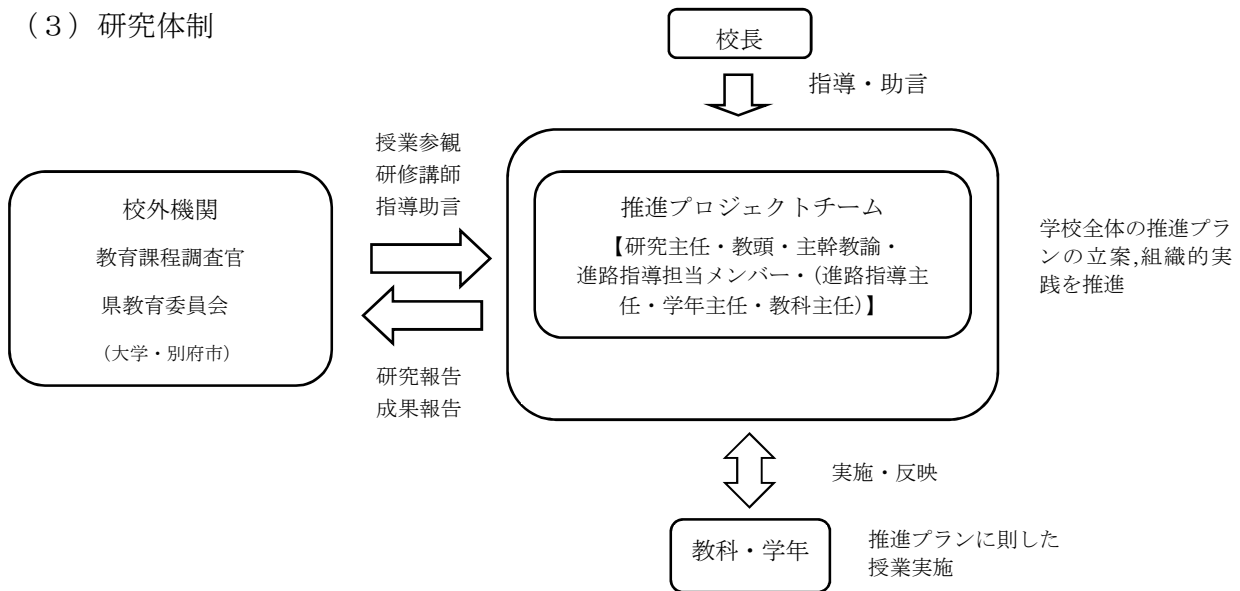
教科・科目等の枠を越えた横断的・総合的な学習の一層の充実を図るための、「考えるための技法」の活用を主とした指導方法及び組織的・系統的な指導計画についての研究

（2）研究主題設定の理由

本校では、教科・科目等で学習した内容を「総合的な学習の時間」に生かしたり、逆に「総合的な学習の時間」を教科・科目等に生かしたりすることに課題があった。このため、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習を充実させることで、「深い学び」の実現を図ることが本校に求められている。

「考えるための技法」の活用を軸にして「総合的な学習の時間」の充実を図ることで、学校全体の授業改善推進は可能になると捉えており、そのためには指導計画と指導方法の確立は欠かせない。そこで、教科・科目等を横断した探究的な学習の指導方法を確立する必要があると考え、本主題を設定した。

(3) 研究体制



○「総合的な学習の時間」の具体的な指導計画及び研究計画は「研究推進プロジェクトチーム」が行い、学級担任及び副担任等が分担・協力して実践・研究を行う。また、教科・科目等との横断的な指導計画についても立案し、実践後の評価・検証を行う。

(4) 1年目の主な取組

	実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等
平成30年度	【1学期】	
	4月	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査による「生徒に足りない力」を分析 「育成を目指す具体的な資質・能力」を明確化 新1年生に向けた研究計画の立案と年間指導計画の作成
	5月	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修（取組のガイダンス・思考ツールの研究）の実施
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向けガイダンス（思考ツールの学習） ≪『働く意義』について考える≫ KJ法やジグソー法を用いた職業観や勤労観の学習 調査方法や効果的な発表方法の学習及びクラスでの発表会 地域で働く方々による「働く意義」についての講話（職業人講話）
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 「考えるための技法」の活用場面の体系化を図るための職員研修 ≪自分の適性を知る≫ 11月の文理選択に生かす契機とするための興味や適性の学習
	【2学期】	
	9月	<ul style="list-style-type: none"> 教科・科目等の横断的な研究 探究プロジェクトの実施と深化を図る取組の実践
	～12月	<ul style="list-style-type: none"> ≪働くことと地域とのつながりを見出す≫ 地域の特性や課題について、フィールドワーク等の調査を通じて検討 教科・科目等で学んだ思考ツールや探究プロセスを用いたグループ活動 教科調査官による指導・研究発表会：10月16日（火）

<p>【3学期】 1月 ～3月</p>	<p>≪『働く意義』の振り返り≫ ・地域に向けられた課題意識の視野を広げるためのディスカッションや小論文の指導 ・次年度の取組「東京探究プロジェクト」につながっていくことを示唆</p>
-----------------------------	--

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①「探究プロジェクト」における取組 ②思考ツールの活用 ③アンケートによる学習効果の調査 ④教科・科目等の横断的指導計画（単元配列表）の作成

(2) 具体的な研究活動

①「探究プロジェクト」における取組

3ヶ年の総合的な学習の時間を「地域探究」「日本探究」「未来探究」と銘打ち、課題発見から仮説の設定、探究活動を経て、課題解決へと至る一連の流れをつくる取組とする。1年次は11の分野に分かれて、地域の抱える課題の共有と解決に取り組み、解決の過程において、市役所や事業所、地域の人々へのインタビュー調査を行った。2年次ではグループ探究活動を行い、3年次には個人探究で自己の未来を切りひらくための活動を行う。

②思考ツールの活用

「湯の町探究プロジェクト」において、町の魅力や改善点、よりよい町づくりへの提言等、生徒のアイデアを「見える化」する。そのために考えるための手法を用いることで、グループ内の考えを整理する機会を多く取り入れた。他教科等の授業や考査等においても思考ツールを活用し、ここでも「思考ツール」の取組を通じた教科等の横断的な取組を実施した。

③アンケートによる学習効果の調査

「湯の町探究プロジェクト」の学習の後、生徒を対象とした学習前後の取組に対する意欲や主体性の向上などについてアンケートを行った。また、10月16日（火）に実施した研究発表会では、参加者から取組に対する意見を聞き、評価点ならびに改善点について分析した。

④教科・科目等の横断的指導計画（単元配列表）の作成

「総合的な学習の時間」を核として、各教科の1年間の指導計画を学年・教科・科目ごとに作成し、学習を進める上で有効な思考ツールも盛り込みながら「教科・科目等の横断的指導計画（単元配列表）」の作成に取り組んでいる。「総合的な学習の時間」で設定している11分野（テーマ）を対応させ、教科・科目等との対応を意識させることを意図している。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 「魅力と課題発見」から「改善点の提言」までを一連の探究活動とすることで、未来を見据えたものの見方や考え方等の資質を育成することができつつある。
- 「思考ツール」という共通言語を持つことにより、教員相互・生徒相互・教員と生徒が認識を共有できた。また活用により、一つのテーマから思考が広がっていく様子や出された意見がどのように集約されるかということが明確になり、研究テーマ設定の際の一助となった。
- 探究活動を含む全ての教科・科目等の授業時に「本時のめあて」を明示することで、活動の見通しを立てて学習に取り組むことができた。また、「本時の振り返り」の機会を設けることで生徒が自己評価・相互評価を行い、主体性を身に付けることができた。これらにより、生徒の学習方法・教師の指導方法を改善することができた。

- 地元の地域活性化に寄与している方々の協力を得たことで、研究に際して有意義な情報を盛り込むことができ、充実した研究につなげることができた。
- 「湯の町探究プロジェクト」のアンケート結果では、多くの生徒が自己の成長を実感できていた。「社会問題に対する興味関心が以前より強くなった【社会への関心】」86%、「与えられた課題について主体的に取り組む姿勢が以前より向上した【主体性】」89%、「情報を収集し、それを効果的に活用する力が以前より向上した【情報活用能力】」92%、「自分の意見を発表したり、書いたりする表現力が以前より向上した【表現力】」89%、「『思考ツール』を各教科の学習においても意識して活用できるようになった【教科横断的取組】」86%。
- 指導者によりツールの活用の仕方に温度差があり、学習成果に差が生じた。また、教職員の中で活動の目的や目指すゴールが共有できていない部分もあった。単にツールを使うことが目的となってしまった場面もあった。
- 「育成すべき資質・能力」について、次年度の研究を始めるに当たり精査する必要がある。また、全ての教育活動の中を通して、どの場面で伸ばすことができるかを整理する必要がある。
- 活動を始める際に、見通しを立てて取組を始める指導や、収集した情報を取捨選択するための指導はまだ不十分であり、多くの生徒が「今後身に付けたい力」として挙げていた。
- 仮説を設定した上で調査を行ったが、改善案の内容が浅く、外部の助言者より「テーマをもっと掘り下げて欲しかった」という評価を頂いた。探究活動のさらなる充実のために、調査・研究・分析・発表などの指導法の研究が不可欠である。

4 今後の取組

① 「探究プロジェクト」における取組

3年間の探究活動の流れを見据えた上で、今年度の「地域の課題発見・課題解決」を発展させ、2年次には視野を「地域と都市の対比」「日本と世界の対比」へと広げ、3年次は「生徒自身の未来と社会との関わり方」へと発展させていく。その手段として、「考えるための技法」の活用や外部の方へのプレゼンテーション等を実施し、生徒の思考の幅を広げていく。

② 思考ツールの活用

思考ツールへの理解と知識を深めるための研修や探究活動の過程に関する研修を取り入れることで、教員の探究学習活動に対する指導力の醸成を図る。思考ツールを活用した授業を「総合的な学習の時間」及び他教科等で取り入れることで、より一層、生徒たちが自ら適切なツールを選択・活用できるようになる主体性を伸長させることにつなげる。

③ アンケートによる学習効果の調査

「総合的な学習の時間」に関する生徒・教員へのアンケート調査を継続して行い、その結果を基に授業改善ならびに、他教科との横断的な関わりについて一層の工夫を行う。外部機関が実施している「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」を図るテストを定期的に活用し、生徒の思考力の変容について分析する。

④ 教科・科目等の横断的指導計画（単元配列表）の作成

「総合的な学習の時間」を核として「育成を目指す資質・能力」に基づく単元配列表を作成し、「総合的な学習の時間」と各教科・科目間における学びを横断的に活用できる授業展開を促進し、目指す生徒像の実現を図る。また、各教科の探究活動においても思考ツールを計画的に活用していく。